

# 第1学年国語科学習指導案

〇〇市立〇〇小学校

1 単元名 よく見てかこう しらせたいな、見せたいな

## 2 指導にあたって

### ○ 児童観

本学級の児童は、男子4名、女子14名で、明るく活発な児童が多い。事前の調査で、国語が「好き」「とても好き」と答えた児童は15名で、漢字の学習や文を書くことに興味を持っている。自分の意見を積極的に発表する児童もいる反面、みんなの前で発表することを苦手とする児童もいる。

一学期で平仮名の読み書きの学習を終了し、二学期に入ってから、漢字や片仮名の学習に進み、文字を読むことや書くことにも慣れてきた。「あのねちょう」などで、書くことが楽しいと感じる児童も増えてきている。「書くこと」の学習は、『どうぞよろしく』で自分の名前を書き、『ことばをいれて、ぶんをつくろう』で絵を見て、主語と述語の文を考えた。『てがみをかこう』では、自分の思いを文として初めて表現することにも取り組んだ。そして『くじらぐも』では、ワークシートに気持ちを想像して書くことを行った。しかし、文字の習得がゆっくりな児童もおり、書くことに対する個人差は大きい。

自分が見つけたことを相手に伝える文を書くことは、児童にとって楽しい活動になると考える。一人ひとりの興味や関心を大切に、適切な支援を行い自分の思いを表現できるようにさせたい。

### ○ 日本語指導が必要な児童について

児童の様子	国籍等	(国籍) ブラジル (母語) ポルトガル語 (在籍年数) 2年
	経験知識	支援なしでは、物の「大きさ」や「形」、「色」などの視点を意識して観察することが難しい。また、自分がしたことや見たことを日本語で表現する力も、まだ十分ではない。
	日本語力	ほとんどの時間を在籍学級で学習しており、日常会話や学習場面での指示はほぼ理解できている。ひらがなの清音はだいたい読み書きできるが、促音や幼音などは十分ではない。カタカナや漢字の読み書きも難しい。
目標	日本語	① 「体の色はどうですか。」の発問に対し「体の色は～です。」と答えることができる。また、発問が「さわるとどうですか。」などに変わっても「さわると～です。」のように答えることができる。 ② 「体の色は～です。」「さわると～です。」の文型を用いて、知らせたいものの特徴や様子を書くことができる。
主な活動	① 「知らせたいもの」を決める。 ② 視点を決めて「知らせたいもの」をよく観察し、言葉で表す。 ③ 観察したことを、文章に書く。	

## ○ 教材観

『しらせたいな、見せたいな』は、学校生活の中から家の人に知らせたいものを選び、それをいろいろな視点から観察し、文章に書いて伝える教材である。児童は、学校生活の中でさまざまな体験をし、誰かに「知らせたい」、「見せてあげたい」という思いを持っている。それを家の人にわかるように文に書いて知らせようという相手・目的意識を持って、学習を始めたい。

教材文の構成は、まず知らせたいものをよく見て「見つけたカード」に絵を描く。その絵に五感を使って観察し、色、大きさ、さわった感じなどを、短い言葉でメモを取り、書きたいことをはっきりさせる。次に、「見つけたカード」をもとに文章を書いていく。この学習の流れは、一年生にとって取り組みやすい表現活動と言える。知らせたいものを繰り返し観察して取材し、知らせたいという思いをたくさん持たせ、意欲を持って書く活動へとつなげたい。

## ○ 指導観

知らせたいものに親しみを持っているかどうかは、書く勢いに関係する。虫を探して見つけたり、生き物の世話をしたりする過程で、「誰かに知らせたい」という気持ちが生まれてくる場合が多い。愛情を持って対象とかかわる時間を大切に、「知らせたい」という思いをたくさん持たせることで、書く意欲へとつなげていきたい。またお家の人に知らせるという目的意識をはっきりさせることで、より意欲的に取り組めると考える。児童は自分の書いた文章を読んでもらう時に、どのように書くとよく分かってもらえるかを意識して、活動に取り組むであろう。その意識は知らせたいことをよく観察することへとつながり、様子がよくわかる文章表現につながっていくと考える。

指導にあたっては、題材に対して五感を働かせて観察する視点を与え、発見したことや気づいたことをたくさん集めることに重点を置きたい。観察の対象は身近にあるものとし、教師も一緒に観察していく。よく観察することで、書くことの意欲が高まり、また書こうとする意欲が高まることによって、対象をよく観察するようになっていく。そして相手に伝えるために文章の組み立てを考えたり、表現を工夫させたりとていねいな指導を行いたい。

そして自分の思いや考えを「書いて知らせる」ことができる楽しさ、自分が書いた物を読んで相手にわかってもらえる喜びを体験させ、「書くこと」への自信へとつなげたい。

## 3 単元の目標

学校生活のことを家の人に知らせようとして、物の様子を見る視点を持ち、観察して分かったことを相手にわかりやすく書いて伝えることができる。

## 4 指導計画（総時間数 8時間）

時間	学 習 活 動	評 価
1	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 本文を読み、学習の見通しをもつ。 ・だれに ・何を ・どのように</li><li>○ 教科書の作品例をもとに、文章の書き方を考える。</li><li>○ 新出漢字を学習する。</li></ul>	【関心】学習の進め方を理解し、興味を持つ。
2	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 校内を探索し、知らせたいものを見つれたり確かめたりする。</li><li>○ 自分の知らせたいものを発表する。</li></ul>	【関心】家の人に知らせたいものを見つける。

3	○ 「見つけたカード」に絵をかく。	【関心】後で気づいたことが書きこめるように絵をかく。
4	○ 「見つけたカード」に書きこむ内容（観察の視点）を確かめる。 ○ 「見つけたカード」に書きこみ、完成させる。 ○ 友だち同士で見せ合い、カードに書きこむことがらを増やす。	【関心】書きたいものをよく観察して書こうとする。 【書く】観察する視点にそって、見つけたことや気づいたことをカードに書く。
5	○ 書き出しを考え、「見つけたカード」をもとにして、短冊カードに文を書く。 ○ 句読点に注意し、主述の整った文を書く。＜本時＞	【書く】教科書の文例を参考にして、主語をはっきりさせて、文に表す。
6	○ 短冊カードを並べ替え、文章の順番を検討する。 ○ 文章を見直し、間違いを直したり、書き足したりする。 ○ 題名をつける。	【書く】書く順番を考えながら、知らせたいことを相手にわかるように書く。
7	文章を作文用紙にていねいに清書する。	【言語】書いた文を読み直し、間違いなどに気づく。
8	友だちと読み合い、感想を伝える。 家の人に読んでもらう。	【関心】友だちの書いた文章を読み、作品のよい点を見つけ、友だちに伝えられる。

## 5 評価基準

- 知らせたいことや見せたいことを考えながら、相手に分かるように書く。（書くこと ア）
- ◎ 書こうとする題材に必要な事柄をよく観察して書く。（書くこと イ）
- 自分が知らせたいことを順序を考えて書く。（書くこと ウ）
- ◎ 書いた文を読み直す習慣をつけ、間違いを見つける。（書くこと オ）
- ◎ 句点に注意して文を書く。（言語 ウ（イ））

## 6 本時の目標

### ＜国語科＞

- ・ 文の作りを理解し、知らせたいものがよくわかるように、「見つけたカード」をもとにして、短冊カードに文を書くことができる

### ＜日本語＞

- ・ 「体の色は～です。」「さわると～です。」の文型を用いて、知らせたいものの特徴や様子を書くことができる。
- ・ 作文の中で、既習の漢字を使うことができる。
- ・ 文字をはっきりと発音し、発表することができる。

## 7 準備物

見つけたカード、短冊カード、文型表示カード、振り返りカード

8 展開

展開	学 習 活 動	支援 (◎は JSL 対象児童)	評価 (◎) および主な AU
体 験	1 本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> </ul>	◎ カードに書いたことを確認し、文章に表わそうとする意欲があるか。
	「見つけたカード」をもとにして、よくわかる文をかこう。		
探 求 ・ 発 信	2 「見つけたカード」の書きこみを文にする。 ① 短冊カードの書き方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>書きだし</li> <li>体の色</li> <li>体の様子 (目・耳・足)</li> <li>文の組み立て 「〇〇は、～です。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つの視点につき、短冊カードを一枚使うようにする。</li> <li>書き始めは、一マス下げて書く。</li> <li>文末には句点を入れる。</li> <li>「目は」「耳は」という主語を意識して、書きこんだ内容を文にして短冊カードに書く。</li> </ul>	C-2 観察する② <ul style="list-style-type: none"> <li>体の色はとうですか。</li> <li>体の色は、～です。</li> <li>目は、とうですか。</li> <li>目は、～です。</li> <li>さわると、～です。</li> </ul>
	3 書いた二文を発表する。 (書きだし・体の色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>何人かが発表し、全員が文の表し方に慣れる。</li> </ul>	◎ 「〇〇は、～です。」の形で文を発表できたか。
	4 体の色以外の書きこみを文にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>書くことに抵抗がある児童には、ヒントカードを出して、支援する。</li> <li>早く書き終わった児童には、自分の書いた文章を声に出して読みなおすなどの課題を与え、自分で表記の間違いに気づき、直すようにする。</li> </ul>	◎ 文の作り方を理解し、相手にわかりやすい文を書くことができたか。
	5 自分が書いた文をグループごとに発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>うさぎ</li> <li>金魚</li> <li>かめ</li> <li>ハムスター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初は隣同士で発表しあい、全体で発表しやすい雰囲気をつくる。</li> <li>声の大きさや文の内容について、それぞれ良い点を見つけ、教師が評価する。</li> </ul>	◎ 相手によくわかるように発表したり、友だちの文を聞いたりすることができたか。
	6 学習のまとめをする。 ①本時を振り返り、カードを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてに沿って自己評価できるようなカードを準備する。</li> </ul>	

## 9 評価

- 「見つけたカード」をもとにして、意欲的に文を考えることができたか。【関・意・態】
- 板書の表現を参考にして、一枚の短冊カードに一つの視点を入れた文を組み立て、書くことができたか。【書】
- 書いた文章を声の大きさや話すスピードに気をつけて発表することができたか。【話・聞】

### <日本語指導の評価>

- 「体の色は～です。」「さわると～です。」の文型を用いて、作文と発表ができたか。
- 作文の中で、漢字を使うことができたか。